「民学産公」協働研究事業成果報告書

研究事業名

「森の地図プロジェクト」研究（平成 24 年度・25 年度）の発展形としての
『三鷹市まちづくり MAP』創出研究事業
－まちづくり研究論文『「まちづくり」に役立つ地図のスタイル研究』の実証－

一般社団法人武蔵野コッツウォルズ
杏林大学

令和 7 年 2 月 20 日

目次

１　研究事業の概要と目的　…　Ｐ1

２　幹事（申請）団体のプロフィール　…　Ｐ1

３　協働研究事業参加団体のプロフィール　…　Ｐ1

４　協働研究事業の期間　…　Ｐ2

５　協働研究事業の企画・実施の背景　…　Ｐ2

６　協働研究事業の実施内容と結果　…　Ｐ3

７　実施結果の考察　…　Ｐ14

８　今後の計画（検討項目）　…　Ｐ17

９　成果物　…　Ｐ18

10　資料（実踏レポート）　…　Ｐ20

「民学産公」協働研究事業　成果報告

「森の地図プロジェクト」研究（平成 24 年度・25 年度）の発展形としての
『三鷹市まちづくり MAP』創出研究事業
－まちづくり研究論文『「まちづくり」に役立つ地図のスタイル研究』の実証－

1. 研究事業の概要と目的

平成 24・25 年度に行った三鷹ネットワーク大学協働研究事業により、緑豊かな武蔵野地域を広域に回遊するイベント「森の地図スタンプラリー」が生まれ、第 21 回（令和 6 年度実施）まで継続的に行われている。この取組みをベースにした「むさしの・ガーデン紀行」計画は、令和 2 年に国土交通省の「ジャパン・ガーデンツーリズム」登録制度に認定された。一方、令和 2 年に発生したコロナ禍を経て、緑豊かなオープンスペースの活用は、地域住民にとって、また自治体のまちづくりにとっても価値の高いものとなっている。三鷹市は「緑と水の公園都市」を市の基本構想に掲げており、進みつつある「百年の森」構想などの実現に向けては、市民が三鷹市の価値を幅広く認識することが必要と思われる。三鷹市の認識に新たな視点を導入したマップを市民・学生などの協働で制作する仕組みをつくり、産官学民が一体となった緑や水のまちづくり活動の原動力になる「地図」の創出を図りたい。また、本研究では地図が持つ力を最大限に引き出すことで、市民のシビックプライド醸成や地域ブランド形成、観光力向上など三鷹市のまちづくりが今後、一層進展する一助としたい。

2. 幹事団体のプロフィール

◆一般社団法人武蔵野コッツウォルズ

緑豊かな「むさしのエリア」を人々が健康的に回遊するための仕組みづくりを目的に設立された団体。平成 24 年秋、「森の地図プロジェクト」が三鷹ネットワーク大学推進機構「民学産公」協働研究事業に採択され、広域回遊イベント「森の地図スタンプラリー」を都立公園の指定管理者である東京都公園協会などとの共同主催でスタート。その企画や事務局運営を担っている。

3. 参加団体のプロフィール

◆杏林大学

三鷹市内に 2 つのキャンパスがあり、大学病院に隣接する三鷹キャンパスに医学部と保健学部、吉祥寺通りに面する井の頭キャンパスに保健学部、総合政策学部、外国語学部が設置されている。本協働研究事業は、外国語学部観光交流文化学科の小堀貴亮教授が共同代表となり、「地域創造インターンシップ」授業履修の４名の学生が研究プロジェクトに参加した。

◆株式会社文伸／ぶんしん出版

三鷹市の上連雀に社屋を構える印刷・出版会社。「井の頭公園いきもの図鑑」など地域に根差した出版物を多く発行している。印刷の地球環境保全を目的とした環境基準認定制度「グリーンプリンティング（GP)」の認定工場でもある。今回の協働研究プロジェクトには三鷹での活動経験が豊富で、地域への見識も高い川井信良氏（会長）も参加している。

◆取材先

三鷹市の「緑と水」に関係する施設として、以下の 4 施設を取材先とした。

・公益財団法人東京都動物園協会（井の頭自然文化園）：都立井の頭恩賜公園に隣接する施設。水生物園は三鷹市に、動物園などは武蔵野市に立地している。

・三鷹市星と森と絵本の家： 国立天文台三鷹キャンパスの敷地内にある。大正期につくられた国立天文台旧 1 号官舎を活用して平成 21 年にオープンした。

・三鷹の森ジブリ美術館：正式名称は三鷹市立アニメーション美術館。平成 13 年に開館。都立井の頭恩賜公園の西園にある。

・森屋農園：三鷹市北野にある 4 代続く農家。庭先での直販のほか、市内の学校給食にも出荷。畑の周辺では外環道のジャンクション建設が進んでいる。

4. 協働研究事業の期間

令和 6 年 7 月 1 日～令和 7 年 2 月 15 日

5. 協働研究事業の企画・実施の背景

【三鷹市まちづくり研究論文】

三鷹市と三鷹ネットワーク大学推進機構は、令和 2 年に、三鷹まちづくり総合研究所「まちづくり研究員」事業を立ち上げ、まちづくり研究員を募集し、論文作成というかたちで地域の課題解決や価値創造に役立つ幅広い分野の知見や提案を集めることを始めた。本研究の提案者（鈴木俊彦）は、この研究員に応募し、そのテーマを下記とした。論文は、令和 3 年の春に提出され査読を経て「三鷹まちづくり研究」創刊号に掲載された。以下がそのタイトルと序文である。

※引用：『「まちづくり」に役立つ地図のスタイル研究』－三鷹市「緑と水の公園都市」－

> 地図には多様なスタイルがある。原始的な絵地図、地形図、土地利用図、人口や産業の分布図、観光マップ、イメージを重視するイラストマップ、またネット上に存在する機能的な地図などなど。本研究では三鷹市の「まちづくり」という視点で、効果的、魅力的な地図とは何かを考察する。三鷹市民が自分のまちを心から誇れるような、また市外の方には、三鷹市にいつか住んでみたいと感じてもらえるような地図、明日のまち「三鷹」のイメージが可視化できる地図創出の方法を論じる。また、その結果みちびかれた地図のスタイルを具体化する雛形を制作し提示する。

三鷹市のまちづくり基本構想の柱となる考え方に「緑と水の公園都市」という概念がある。この言葉は、三鷹市のロゴマークにも組み込まれており三鷹市を象徴する概念のひとつとなっている。しかし、市民感覚としてこの言葉が市を象徴する概念であると認識している人は少ないのではないだろうか。現在、三鷹市が制作に関係するマップは数種類あるが、この概念がテーマとなっているものは存在しない。唯一存在するのが、市のホームページにのっている「緑と水の回遊ルート」で、その内容は、市内にある牟礼、丸池、大沢などの「ふれあいの里」を中心に回遊ルートを提示するものである。一方、地図上の三鷹市のほぼ中心に存在する市役所を起点に半径 3 キロ程度の円（一部他市含む）を描いてみると、そこには都立井の頭恩賜公園や都立神代植物公園、都立野川公園、都立武蔵野の森公園などの広大な都立公園が存在する。また、井の頭池、神田川、玉川上水、仙川、野川、深大寺などの水辺の景色。国分寺崖線（はけ）、国立天文台や国際基督教大学など大きな森とも言える豊かな緑に恵まれている。まさに「緑と水の公園都市」にふさわしいアイテムが多々存在していることに気付くのである。

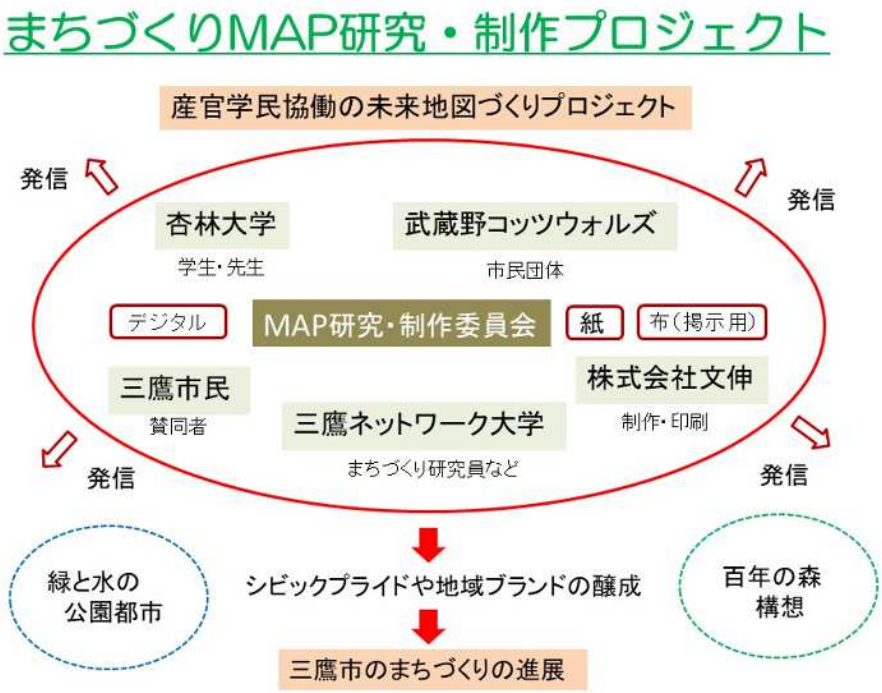
以上の認識にもとづき、本研究では、地図がもつ機能の考察をふまえながら「まちづくり」に役立つ地図、三鷹市のブランド形成にも貢献する地図の創出方法を論じていきたい。

この論文は、まちづくりに役立つ地図のスタイルを考察したもので、その実証は地図の制作をもって完結するものであった。この度の協働研究事業は、論文で提示されたものをかたちあるものにし、公の審判を仰ぐ実証実験となるものである。

6. 協働研究事業の実施内容と結果

本協働研究の実施内容を以下の内容とし、参加団体等による「まちづくり MAP 研究・制作委員会」を立ち上げ、推進した。

１）まちづくり MAP 制作の方法論の検討
２）地域観光学を研究（専攻）する大学生（杏林大学）と市民参加による現状調査
３）現状調査の取りまとめ、検討（緑と水に関連するものを中心とした三鷹市の価値、資源）
４）地図のサイズや掲載事象の検討
５）地図の制作、検討
６）デジタル版データの制作、検討



●協働研究事業の概念図

●研究・制作会議

●印刷工程の確認

●企画会議（杏林大学）

●企画会議（杏林大学）

先にあげた協働研究事業の内容詳細と実施結果を項目ごとに記す。

１）まちづくり MAP 制作の方法論の検討

協働研究の前提となる論文『「まちづくり」に役立つ地図のスタイル研究』で述べられている内容を MAP 研究・制作委員会で検討を行った。検討項目は以下である。

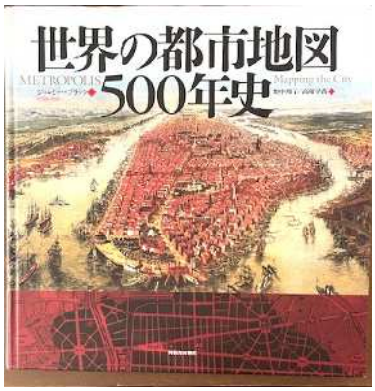
◆表現手法を鳥瞰図とすること（三鷹駅の上空から多摩川、さらに富士山を眺望）
◆北を上にした地図ではなく、南を上にした地図とすること（地形的・歴史的・心理的・行動的背景）
◆三鷹市の周辺地域も取り込んだ地図とすること（市域を超えて一体化した回遊空間の創出）
◆紙とデジタルについて、また、その両媒体を連動すること
◆三鷹市民がまちづくりを共有できる地図とすること（まちづくりの進展とともに更新・共有される地図）

まず表現手法の鳥瞰図について述べる。論文でも紹介されている鍬形蕙斎の「江戸一覧図」のように鳥瞰図の最大の特長はパノラマのような一覧性にあり、その手法は、日本のみならず、海外でも古くから様々な都市図に採用され、広く用いられている。三鷹市を俯瞰し、新しい視点をもって地域の環境を視覚化するのは、この手法が最適で、三鷹市の概念を地図で伝える手法に相応しいことを委員会で確認した。この鳥瞰図を作成するにあたっては、平成 22 年にみたか都市観光協会が発行した「みたか散策マップ」でイラストを担当し、三鷹市の土地勘もある丸山純司氏が適任と決まり依頼することになった。鳥瞰図の作成にあたっては、河出書房新社発行の「世界の都市図 500 年史」を参考に、色調や詳細度などについて入念な検討を行った。

●鍬形蕙斎「江戸一覧図」

●15 世紀頃のフィレンツェ（イタリア）の絵図）

●みたか散策マップ



●世界の都市地図 500 年史

次に地図の方角と範囲についての検討を行った。三鷹市の特徴は、市の周辺部（一部他市）に都立井の頭恩賜公園、都立神代植物公園、都立野川公園、都立武蔵野の森公園、都立武蔵野公園などの大規模都立公園が存在することである。これらを鍬形蕙斎の「江戸一覧図」のように南に向かって眺めれば、その先には多摩川があり、富士山が眺望できる。右の写真は、市内の実踏調査を行った際に、井の頭公園付近の吉祥寺通りの横断歩道橋上で見た景色である。公園の木々の間から富士山がはっきりと見えた。三鷹市民の生活感からは JR 中央線の三鷹駅の方角に意識が向かいがちだが、視点を 180 度変えることで、「緑と水の公園都市」のイメージが現実のものとして浮かび上がってくる。論文でまとめられている資料（地図の変遷）を見ても、地図の向き（方角）はその時々の目的で異なっている。現在、目にする地図のほとんどは、北が上であるが、三鷹市の概念を伝える地図の実証実験である取組みとして、北に拘らず制作することを決めた。以下は論文からの引用である。

時代	地図	特徴	地図の向き	記録媒体
BC1500年ごろ	カモニ族の村落地図	岩壁に刻まれた村落図	—	岩
BC7世紀ごろ	バビロニアの世界図	現存する世界最古の地図	北	粘土版
BC3世紀ごろ	エラトステネスの世界図	水平線と垂直線の使用	北	パピルス・羊皮紙
2世紀ごろ	プトレマイオスの世界図	円錐図法で表した半球図	北	パピルス・羊皮紙
中世(8世紀ごろ)	TO図	キリスト教の楽園がある東が上	東	紙
中世(12世紀)	イドリーシ—の世界図	南が上のイスラム的な地図	南	紙
1385年	カタロニアの世界図	南北の部分が省略(東西に長い)	北	紙
1569年	メルカトルの世界図	正角円筒図法、海図、航路図に利用	北	紙
1570年	オルテリウスの世界図	70図からなる世界初の地図帳を出版	—	紙
1595年	リンスホーテンの東アジア図	航海者が使った地図がベース	東	紙
19世紀	カッシーニ図や伊能図	三角測量による正確な地図	北	紙
20世紀	電子地図	デジタル化された地理空間情報	—	電子
20世紀	グーグルマップ	スマートフォンなどで広く活用	自由	電子

●地図の変遷

※引用：『「まちづくり」に役立つ地図のスタイル研究』－三鷹市「緑と水の公園都市」－

現在、世界で制作、使用されている地図の多くは北が上になっている。しかし、地図の歴史を遡ると、そのときどきの目的や世界観によって一様ではない。例えば、中世のキリスト教的世界観で作られた地図は、楽園があるとされた東が上になっているし、イスラム世界では、南が上になっていた。また、ヨーロッパからアジアへの東方貿易に使われた航海図の一部は、東が上になっている。日本においても江戸時代に描かれた江戸図では、東京湾から富士山の方角、南西に向けた構図が多く用いられた。このように地図の向きは、その目的、表現内容で選ばれるべきで、本稿が論じる「まちづくり地図」は三鷹駅ビルを起点に武蔵野台地の南西端（国分寺崖線）から多摩川、富士山を眺望する図が最も効果的と考える。三鷹市を訪れる人の動線で考えた場合も、ＪＲ中央線の三鷹駅が行動の起点になることが多い。

次に地図の範囲についての検討を行った。この点にほとんど議論の余地はなく、三鷹市に限定するのではなく、その周辺部も取り込んだ地図とすることで意見は一致した。その際に、何をどこまで描き込むかについては意見が分かれたが、目的は、「緑と水の公園都市」のイメージ醸成を第一とし、観光的な要素も取り込むものであるが、２次的な扱いとする結論に至った。事象が多岐になることで求心力が弱まることを避けたためである。

次に紙とデジタルについて、また、その連動について検討を行った。論文での分析をベースに、まずは、それぞれの長所、短所について委員会メンバーで確認した。

以下、論文の内容である。

※引用：『「まちづくり」に役立つ地図のスタイル研究』－三鷹市「緑と水の公園都市」－

■デジタル媒体の長所

・スマートフォンがあれば、どこでも閲覧できる

・随時更新が容易である

・他の情報にリンクできる

・GPS(位置情報システム)機能が持てる

■紙媒体の長所

・一望性が高い

・五感を刺激する

・イメージ、概念が伝わりやすい

・折りたたんで携帯できる

以上がデジタル媒体と紙媒体、それぞれの長所である。デジタル媒体の長所が多く紙媒体の分が悪い。しかし、本稿の目的である「まちづくりに役立つ地図」に限定して考えると、紙媒体の長所、特に「一望性が高い」点が大きくクローズアップされる。この

「一望性」についてだが、電子媒体、特にスマートフォンの最大の限界、弱点はこの点にある。当然のことながらモニター画面が小さいため広範な地域の細部までは視覚的に認知できない。もちろん、拡大機能（紙媒体は不可）があるので、特定の地域に限定すれば細部まで見ることが可能であるが、極小的な認識になり、まち全体の雰囲気などを認識しにくい。

紙媒体の長所のもうひとつ「イメージ、概念が伝わりやすい」について考えてみよう。これは先の説明にも通じることだが、デジタル地図は小さい画面で見ることが多いために現実空間の全体像を実感しづらいこと。また、液晶画面での体験となるので、紙の手触りなどのリアルな体験との差がでてしまうことが起因していると思われる。さらにデジタル媒体は紙媒体と比較して受け手に供給する情報の総量が多く受け手は受動的になりがちで、主体的な思考による本質的な理解に繋がりにくいのではないだろうか。この点に関しては学校教育における紙の教科書とデジタル教科書との学習効果の研究にも通じるものがあるので、今後考察を深めていきたい。

論文では、紙媒体の長所として「イメージ、概念が伝わりやすい」ことを重視し、その理由として、液晶（モニター）画面での体験とリアルな体験とのちがいをあげている。これについては、紙の教科書とデジタル教科書との学習効果についての興味深い情報提供が委員会内であった。それは、読売新聞に掲載された記事である。

【読売新聞記事】2024 年 10 月 22 日朝刊

この記事は『教科書「紙」に回帰』の見出しで概略、下記の内容が書かれていた（記事の一部を抜載）。

スウェーデン 端末重視で学力低下　IT 先進国のスウェーデンで、授業風景が変わり始めている。2006 年には学習用端末の「1 人 1 台」配備が広まり、教科書を含めデジタル教材への移行が進んだ。だが昨年、学習への悪影響があるとして、紙の教科書や手書きを重視する「脱デジタル」に大きくかじを切った。（略）デジタル教材が教室に深く入り込んだスウェーデンでは近年、子どもの学力を測る国際調査で、成績の落ち込みが目立つようになっている。（略）トルケル・クリングベリ教授（認知神経学）は「学習の記憶は、どの辺りに書かれていたかといった物理的な位置情報と関連しており、画面上の情報は記憶に残りにくい」と指摘。（略）スウェーデンは、紙の教科書が「1 人 1 冊」となるよう再普及している。（略）ロッタ・エードホルム学校教育相は 9 月下旬、読売新聞の取材に、こう述べた。「我々は今、科学的根拠を基に、正しい学習のあり方へ軌道修正しているのだ。

紙の地図は、スマホで見る地図と比較して一望性が高いのは一目瞭然だが、概念の認識や記憶の面でもデジタルに対して優位性があることが上記の記事からも裏付けられた。日

本のデジタル教科書は学校教育法の改正で令和元年度から使用になったが、小中学校で英語を教える教員のうち、授業で紙の教科書を使わず、デジタル教科書のみ使用している割合は3%にとどまっている（財務省調べ)。

また、佐藤学・東京大学名誉教授（学校教育学）は「紙の教科書と同じ内容になっているデジタル教科書を使う意味はない。紙で活用できるものは紙を使い、デジタルはプログラミングなど『学びの道具』として活用すべきだ」と指摘している（読売新聞：2024年9月23日朝刊記事)。

教科書と地図は別のものであるが、これらの知見を受け、委員会では、まちづくりMAPを紙で製作することの優位性を確認し、紙の地図とデジタル情報の相互補完の方法としてQRコードを用いることを決めた。

最後に、三鷹市民がまちづくりを共有できる地図とすることについて検討した。まずは制作した地図が広く三鷹市民に行き渡ること。紙の地図については、物理的な部数に限りがあるので、デジタル版の地図を関連のメディアに掲載を依頼し、露出を高めること、また、紙の地図はコスト面から頻繁に再版することはできないため、まちづくりの進展とともにデジタル版のMAPを更新し、まちの変化を市民が共有できるしくみを構築すること、デジタル版の更新については、その役割を杏林大学が担うことが提案された。

２）地域観光学を研究（専攻）する大学生（杏林大学）と市民参加による現状調査

まずは、令和6年7月から9月にかけて、武蔵野コッツウォルズを中心に、三鷹市の現状を論文の実踏調査（巻末資料）を検証するかたちで行った。次に杏林大学生4名と小堀教授でチームを結成し、三鷹市内の4施設を対象に取材を行った。杏林大学生4名は、「地域創造インターンシップ」授業履修で本協働研究事業に参加した下記の4名である。（杏林大学外国語学部観光交流文化学科3年・小澤実玖、島崎かえで、福井梨央菜、2年・横倉瑞希）

【森屋農園の取材】農園主　森屋 賢さん　2024年11月6日　担当　小澤実玖

【三鷹市星と森と絵本の家の取材】館長　西村路香さん 2024 年 11 月 11 日
担当　福井梨央菜

【井の頭自然文化園の取材】管理係長（課長補佐）小川雄一さん　担当　島崎かえで

【三鷹の森ジブリ美術館の取材】広報担当　小林一美さん　担当　横倉瑞希

３）現状調査の取りまとめと検討

現状調査では、論文作成時（令和３年）の実踏調査資料をベースに現状の変化などを確認し、制作する地図の内容に反映させた。また取材内容は地図掲載原稿として下記のようにまとめられた。

●森屋農園　農園主　森屋 賢さん　　取材：小澤実玖

三鷹市北野にある「森屋農園」は、安心安全で新鮮な野菜や果物、ハーブティー用の花などを生産しています。特に鮮やかな青色が美しいバタフライピーは、美容効果や抗酸化作用が期待され注目を集めています。「税の問題など農園を維持していくのは大変ですが、都市農業は緑の確保や防災的な役割でも重要。出前授業やイベントなどの機会を利用して都市農業の大切さをアピールしています」と話す森屋さん。旬の野菜を直売所で販売

するほか、市内の学校給食用にも出荷しているそうです。東京で採れたての味を楽しめるのは、都市農業のおかげですね。

●三鷹市星と森と絵本の家　館長　西村路香さん　取材：福井梨央菜

「星と森と絵本の家」は、天文台の森の中にある施設で、絵本との出会いやさまざまな体験を通じて温かな時間を提供しています。かつて官舎だった建物を活用。館内にはたくさんの絵本が並び、絵本の家の中なら畳やソファーなど好きな場所で楽しめます。また、庭には自然の中でリラックスできる空間があり、週末などにはボランティアによるクラフト体験もできます。西村さんは「ゆったり絵本を楽しんだり、自然や周囲の人たちとふれあいながら、ここでしか味わえない、居心地の良い時間を感じていただきたい」と話します。日常から少し離れた癒しのひとときを過ごしてみてはいかがでしょうか。

●井の頭自然文化園　管理係長　小川雄一さん　取材：島崎かえで

1942 （昭和 17 年に開園した東京都立の動物園のひとつです。武蔵野の面影を残す園内には動物園だけでなく、水生物園や彫刻園のほか、ツバキ園やシャクナゲ園などがあり、自然と文化が調和した施設になっています。およそ 170 種類の動物が暮らしていますが、特に、日本固有の動物であるツシマヤマネコをはじめとした、日本産動物の保全に力をいれています。「訪れた方に動物に親しんでいただき、彼らのことをもっと知っていただきたい。そのためにも、動物に寄り添い、守り続けることを大切にしています」と話す小川さん。そんな運営方針もあってか、人気者だったゾウ、はな子の命日には今でも沢山の花が寄せられているとのこと。心温まるお話ですね。

●三鷹の森ジブリ美術館　広報担当　小林 一美さん　取材：横倉瑞希

三鷹の森ジブリ美術館を訪れて、美術館が多くの「こだわり」を持っていることを知ることができました。特に印象に残っているのは、美術館なのに映画をみているような感覚を味わえるということ。導入部が三鷹駅から風の散歩道。美術館の門からトトロのにせ受付、入口、本物の受付と続きます。そして館内はまるで迷宮のよう。順路もなく、映画の見方に人それぞれ決まりはないように、自分の好きなところを発見し、自由に想像して楽しむ工夫がいっぱいでした。「感じてもらう、触れてもらうことを大切にしている」と話す小林さん。取材の私たちへの説明もジブリ愛に満ちた熱のこもったものでした。

４）地図のサイズや掲載事象の検討

◆掲載する事象

地図に何を載せ、何を省くか？地図に掲載する要素の検討を行った。明確な主張とインパクトのあるビジュアル、読解性の高い地図を創出するためには、地図に掲載する情報を

絞り込み、事象を選別しなければならない。検討の結果、「緑と水の公園都市」をテーマとした地図に必要な要素として下記の事象を取り上げることにし、その扱いを決めた。
【掲載する事象】公園や農地などの緑地／主要な道路／用水路跡や遊歩道／川／森（国立天文台やICUなど）／寺社など緑が多い施設／ランドマークとなる建物
【事象の扱い】主要なものには解説を付し、その他は名称のみとした。「緑と水の公園都市」が主題であるので、ビジュアルを明確にするため、事象を絞り込んだ。

◆サイズ

紙の地図の使いやすさを考えるとき、使用する紙のサイズは重要である。目的が三鷹市の概念「緑と水の公園都市」であり、そのために「一望性」が重要であるため、実際に人が手にした時の使いやすさからサイズを決定することになり、三鷹市を対象とした地図を手に取ってみて検討をした。対象とした地図は以下のとおりである。

Ａ1判（横841㎜×縦594㎜）：みたかガイドマップ
Ｂ2判（横1030㎜×縦728㎜）：三鷹まるごと博物館マップ
Ａ2判（横594㎜×縦420㎜）：みちなみつなぐ緑マップ：東京都都市緑化基金発行（三鷹市で該当なし）
Ｂ3判（横515㎜×縦364㎜）：三鷹文学散歩マップ
Ａ3判（横420㎜×縦297㎜）：三鷹太宰治マップ
Ａ4判冊子（変形）：みたか散策マップ

●三鷹市で作られている地図

結果、今回の地図の目的から最もふさわしいサイズをＡ2版、あるいは、Ｂ3版と定めた。理由は以下の通りである。Ａ1判、Ｂ2版はサイズが大きく全て広げて見るためには場所が限定される。外出先でこのサイズを広げてみることが難しい。Ａ3版は、一覧性や広げる場所の条件については問題がない。しかし、紙面がコンパクトすぎて、「三鷹太宰治マップ」のように地域を絞り込んだものでないと適さない。Ａ4判冊子の「みたか散策マップ」については、見開きごとに紹介エリアを分けて見せていくことには優れているが、三鷹市全体を一覧する地図には適さない。Ａ2判とＢ3判は、広げたときに肩幅に近い位置に持つ手があり、紙面全体を無理なく両目でとらえることができた。多少の個人差はあるにせよ、Ａ2版、あるいはＢ3版が適したサイズと判断するに至った。このサイズであれば、折りたたんだ後の仕上がりサイズにおいても、ラックなどにセットしたり、手

にした人が携帯する上で適したものとなる。

５）地図の制作、検討

◆地図の表裏の役割

地図の表裏の二面について仮にＡ面、Ｂ面として、その役割の整理を行った。

Ａ面：地図の目的である絵図（イラスト）を全面に掲載する。

Ｂ面：絵図以外の要素（表紙、地図の主旨などの解説文、発行者などのクレジット、地図で取り上げる事象とその解説、取材記事、デジタルデータにリンクするＱＲコードなど

上記のＡ面とＢ面であるが、印刷物の目的からすると地図（イラスト絵図）が掲載されているＡ面が表となり、いち早く地図（イラスト絵図）を目にしてもらいたいのだが、印刷物は折り込んだ状態が仕上がり物となるため、表紙になる要素が入るＢ面を表面にせざるを得ない。そこで、表紙（Ｂ面）から如何に早くＡ面に誘導するかが議論となり、次の２つの対応が考え出された。

・蛇腹折りの谷と山の設定を逆にした２つの折り見本を作り、開き方の実験をする。

・表紙（Ｂ面）から地図（Ａ面）に誘導する印刷上のしかけを入れ込む。

２つの折り見本による実験では、実験に参加した人の利き手（右利き、左利き）のちがいもあり明確な優劣は確認できなかった。

そこで、表紙の最下部に頁をめくるデザインを施した。さらにそこに三鷹市のキャラクター「ポキ」を配し、裏面（イラスト絵図面）への誘導を強化する案が考え出された。誘導役のポキが裏面の地図の中に潜んでいて、「ポキ探し」をする仕掛けとなっている。

これは、キャラクター使用許可をジブリ側に行ったときに副次的な効果をもたらした。ポキのキャラクター使用については、いくつかのルールがあり、キャラクターが明瞭に表示されない背景への使用は認められていない。しかし、地図中のポキ探しの主旨にジブリ側の共感が得られ、特別に認められることになった。キャラクター使用については、使用の主旨と企画性によって例外もあることの好事例となった。

●表紙最下部のめくりのしかけ

●地図中に潜むポキ

明瞭に表示されない背景への使用をしない

●ポキのキャラクター使用について

◆絵図（イラスト）の制作

絵図（イラスト）の制作がこの協働研究事業の要で、この部分についてはイラスト制作を担当した丸山氏の尽力が大きかった。丸山氏は鉛筆画の下絵で構図の確認を何度も行い、地平線を円弧状にカーブをつけるなどの工夫によって、三鷹とその周辺、さらには多摩川、富士山を眺望する鳥瞰図を見事に描き上げた。

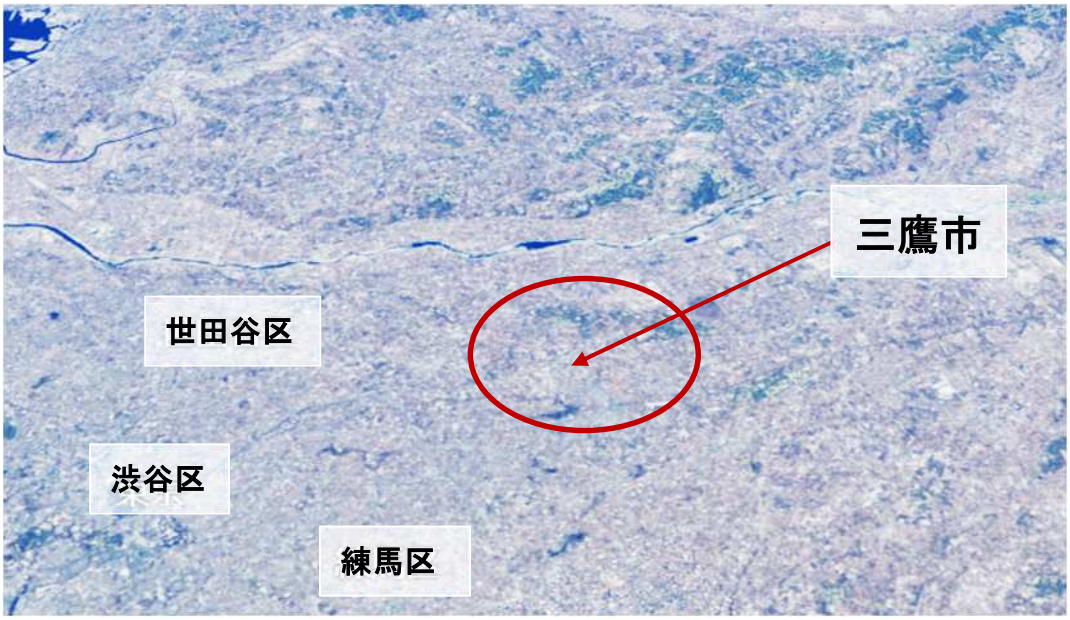
６）デジタルデータへのリンクなどについての検討

紙媒体に掲載できる情報量をカバーするためにＱＲコードを埋め込みデジタル媒体へのリンクを図った。このＱＲコードは絵図（イラスト）に掲載するのではなく、情報掲載面に掲載することとなった。また、地図を手にした人からフィードバックを得て、継続的な取組みの改善点などを得ることと「まちづくり地図づくり」への参加意識の醸成のためグーグルアンケートフォームへつながるＱＲコードを地図（イラスト絵図）のしかるべき位置に印刷することを決めた。

6. 実施結果の考察

本研究の場合、その実施結果は「まちづくり地図」の完成品そのものとなる。この地図をどれだけの人が手にし、どのような感想をいだくかにかかっている。それは今後の地図の配布状況とアンケートの回収結果にゆだねられるが、地図を研究・制作していく中で、発見したことや印刷された完成品を目にした感慨を記して考察とさせていただきたい。

まず最初に、あらためて三鷹市周辺を調査し、その素晴らしい環境を再認識した。次の写真は、東京都の上空から撮影された鳥瞰写真（マイクロソフト社 BingMaps）であるが、写真左下部分の皇居や新宿御苑周辺の緑地以外では三鷹市周辺の緑地がひときわ目立つ。これはまさに東京砂漠の中のオアシス的な空間の存在であり、都心部に比較的近距離にありながら「緑と水の公園都市」たる素地は充分すぎるほどあると言えるだろう。



以上は、地理的、環境的な面での考察だが、次に視点を変えて、行政の施策と住民意識の面での考察を行う。三鷹市が市政の方針と市民の意識について公表しているデータが存在する。そのひとつが、令和 6 年に策定された三鷹市第 5 次基本計画（1 次案）に対する市民アンケートの結果である。

第 5 次三鷹市基本計画（1 次案）についてアンケート
優先的に取り組んだ方がよいと思う項目を 3 つ選んでください。

- 日々の暮らしの基盤となる平和・人権のまち（20.4%）
- 魅力あふれる活力・にぎわいのまち（23.6%）
- 地域の特性が生きる緑豊かで快適空間のまち（43.2%）
- 生命と暮らしを守る防災・減災・安全安心のまち（46.0%）
- 持続可能な社会を実現する環境・循環のまち（22.9%）
- 誰もが安心して暮らせる健康・福祉のまち（41.1%）
- 個性が輝き笑顔あふれる子ども・教育のまち（39.5%）
- 心豊かに生きがいを高める生涯学習、スポーツ、芸術・文化のまち（24.8%）
- いきいきと暮らせるコミュニティ・自治のまち（13.3%）

回答率が 40%を超えている 3 項目は、緑と水の公園都市と関係が深いもので、緑豊かな空間は、防災や減災、健康な暮らしにもつながる貴重なものであると言える。

次に、三鷹市の施策の達成度を測る指標における市民の反応を見てみよう。

第２部　魅力あふれる活力・にぎわいのまち

施策	施策の達成度を測る指標（KGI）	策定時 （令和４年度調査）
都市農業	農地が必要であると感じている市民の割合	88.3%
地域経済	市内産業の存在が三鷹市の魅力向上と活性化につながっていると感じている市民の割合	63.0%
	地域の商店(街）を日ごろから利用している市民の割合	72.1%
都市観光	三鷹市の魅力の PR が十分に行われていると感じている市民の割合	16.5%

「魅力あふれる活力・にぎわいのまち」のカテゴリーでは、農地が必要であると感じている市民の割合が高く、一方で、都市観光の施策において、三鷹市の魅力のＰＲが十分に行われていると感じている市民の割合が著しく低くなっている。この数字の意味するものは、三鷹に暮らす市民は、三鷹の魅力を観光地という視点ではなく、暮らしの延長にある快適空間と認識しているのではないだろうか。

ここで述べたことは、次の指標を見るとより明確になる。施策の都市再生、住環境、緑と公園の項目はいずれも高い数字を呈しており、三鷹に住み続けたいと思う市民の割合が非常に高い数値となっている。これは、様々な要素が積み重なったものと思われるが、「緑と水の公園都市」を標榜する三鷹市にとっては示唆深い数字ではないだろうか。

第３部　地域の特性が生きる緑豊かで快適空間のまち

施策	施策の達成度を測る指標（KGI）	策定時 （令和４年度調査）
都市再生	三鷹に住み続けたいと思う市民の割合	93.1%
道路	普段利用している道路が通行しやすいと感じている市民の割合	38.8%
住環境	自分の住む地域が良好な住環境であると感じている市民の割合	87.2%
交通環境	自宅などから目的地まで円滑に移動できる交通ネットワークが形成されていると感じている市民の割合	68.5%
緑と公園	地域の自然環境と生活環境が調和していると感じている市民の割合	74.2%

三鷹市の河村市長は、その著「明日のまち「三鷹」を考える」の中で、次のように述べている。

三鷹に魅かれて住み始めた人、また偶然三鷹に移り住んできたが、今では何故か三鷹に魅かれている人・・・、そんな人の多くは土や緑の持っている温もりが、このまちでは人と人との関係にまで及んでいることに気づいている。(中略)鳥が空からまちを眺めれば、まるで畑地や樹林の中にまちがあるような、そんな緑あふれるイメージにならないだろうか。楽しく歩ける道沿いに、多様な公園が用意されていることから、様々な物語がはじまる。

河村市長が述べている「土や緑の持っている温もりが、このまちでは人と人との関係にまで及んでいることに気づいている」という一文は、上記の市民意識と符合するものであり、「100 年の森」構想は、三鷹市のまちづくりにとって的を射たコンセプトと言えるだろう。この『三鷹市まちづくりＭＡＰ』創出研究事業で作られた「みたか緑と水まっぷ」がその一助となれば幸いである。

7. 今後の計画（検討項目）

◆成果物の「みたか緑と水まっぷ」を市内及び東京都内のしかるべき場所に設置し配布する（三鷹市やみたか都市観光協会、まちづくり三鷹などと要相談）。

◆A0 版の拡大 MAP（布製）の掲示場所について検討。上記同様、市の関係機関や駅ビル（ＪＲ東日本）などにも打診する。

◆「みたか緑と水まっぷ」のデジタルデータのアップロード先やリンク先を関係機関と相談、交渉を行う。

◆「みたか緑と水まっぷ」に掲載のＱＲコードを窓口に回収されるアンケートを集計し分析する。

◆まちづくりの進展とともにデジタル版の地図を簡易的に随時更新する。

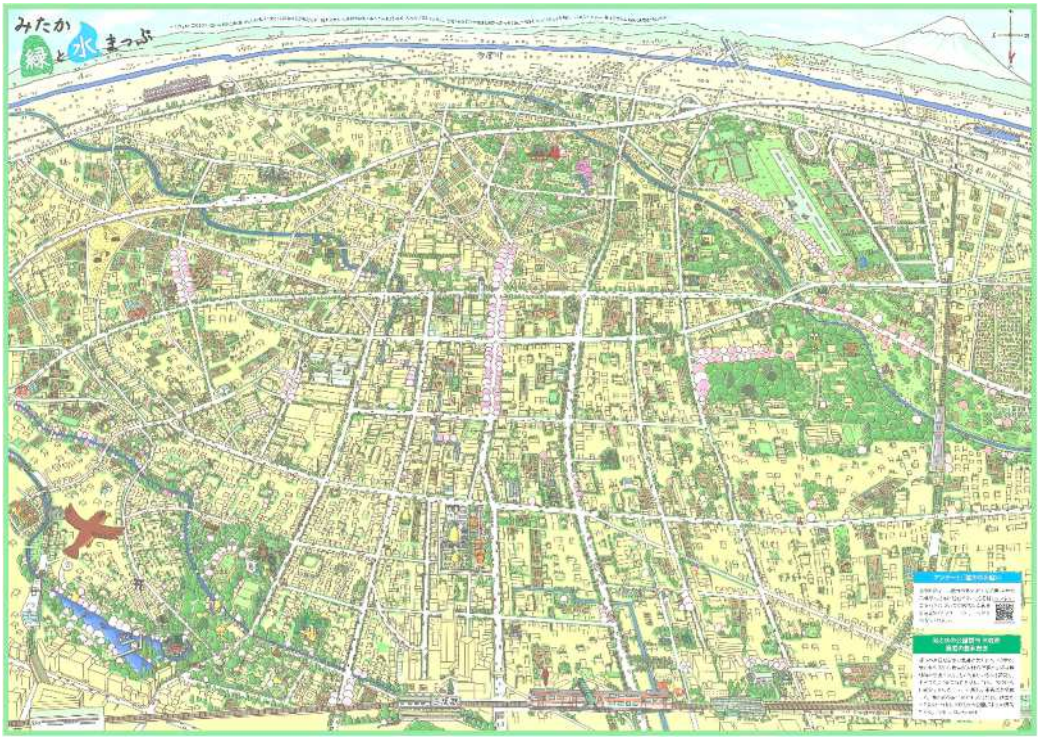
◆紙版の再版は、１部 100 円程度の販売（寄付）料金を設定したり、企業や団体との連携による継続体制を研究、数年に一度の更新版の発行をめざす。

◆ＳＮＳ上のコミュニティを構築し、緑のまちづくりの情報提供などで市民の参加意識醸成を図る。

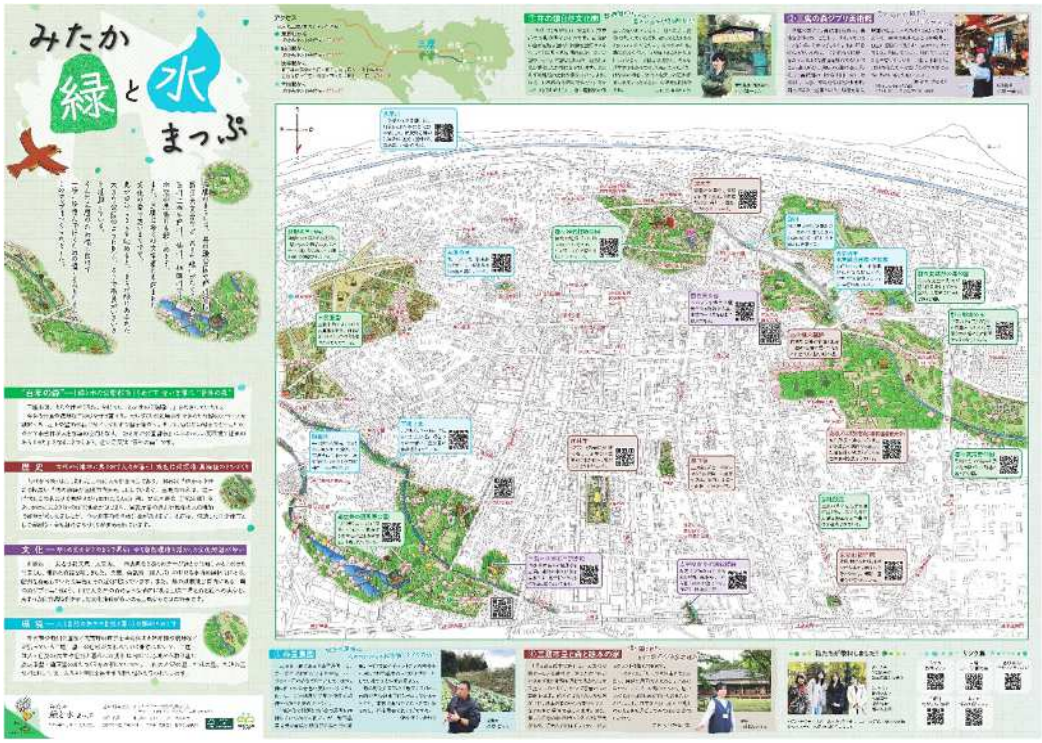
以上の検討項目について実現に向けた計画を企図し、三鷹市のまちづくりの進展に合わせ進化する地図としての存続をめざす。そして、市民や企業が緑のまちづくりの価値に共感することにより、農地の維持や屋上・壁面緑化などの緑を育てる、増やす活動の原動力となる地図、三鷹市の「100 年の森」構想と伴走できる地図となることをめざしたい。

【成果物】「みたか緑と水まっぷ」A2 版、5,000 部

●地図面



●表紙面



【成果物】「みたか緑と水まっぷ」A0 版（（H841mm×W1,189mm）3 部（布製掲示用）

行程と距離	地図の要素	探訪記	現地写真
①三鷹駅 約1.0 km	風の散歩道／玉鹿石／山本有三記念館／万助橋／井の頭恩賜公園	三鷹駅から玉川上水沿いの「風の散歩道」を井の頭恩賜公園に向けて進む。沿道には、太宰ゆかりの玉鹿石（入水地）や山本有三記念館がある。有三記念館の裏手には、有三が好んだとされる竹林などを配した有三記念公園があり、記念館の建物を眺めながら木陰でしばし休をとることができた。	●山本有三記念公園 ●富士山遠望 ●玉川上水の流れ ●井の頭恩賜公園
②都立井の頭恩賜公園 約2.5 km	井の頭自然文化園／富士ビュースポット／三鷹の森ジブリ美術館／小鳥の森／玉川上水	風の散歩道の終点、万助橋で玉川上水が吉祥寺通りと交差する。吉祥寺通りを南に進み、井の頭恩賜公園と井の頭自然文化園をまたぐ歩道橋の上から富士山を眺望。緑の木々の間から雪をまとった富士山がきれいに見えた。公園の中に入り、「ほたる橋」から玉川上水を下流のほうに向かう。	●井の頭池で憩う人 ●玉川上水緑道 ●野菜の無人販売 ●牟礼の里山的景観
③牟礼の里公園 約1.6 km	路地販売／レンタル畑／丘の上の農家／牟礼神明社／牟礼の里公園	玉川上水は、上流の羽村取水堰からほぼ直線の流れであるが、この辺りでは、高低差のある地形の関係からかときおり蛇行しており、散策に興を添えている。水量も場所により差があるようだ。牟礼の里近辺では、野菜の無人販売や大規模なレンタル畑、丘の上の麦畑などそこここで農の風景に出あえた。	●レンタル畑 ●牟礼神明社 ●牟礼の畑から吉祥寺遠望 ●牟礼の里公園
④どんどん橋 約1.8 km	どんどん橋／ケヤキの巨木／花と緑の広場／農家／イチゴ農園	玉川上水のほぼ三鷹市のはずれに位置する「どんどん橋」から東八道路を西に進む。沿道に直売所を設置する農家が点在し、大規模なイチゴ農園を営むところも2か所あった。三鷹市が運営する「花と緑の広場」では花壇などの手入れをするボランティアが多数、にぎやかに活動していた。	●どんどん橋 ●花と緑の広場 ●イチゴ農園 ●新川の農家と竹林
⑤新川天神社 約1.6 km	新川天神社／威徳院／天神山通り／麦畑／学校農園／外環建設地／北野公園	東八道路から天神山通りの旧道を南下する。並行してつくられた新道は道幅が広く春は桜の並木が美しい。旧道が新道に合流する辺りに北野公園がある。武蔵野の原風景を感じる雑木林が自然に近いかたちで残るスポットである。北野には農家が多く残り、外環の建設現場と近接している畑も存在していた。	●新川天神社 ●北野公園の雑木林 ●学校農園の麦畑 ●外環建設現場の農家
⑥天神山青少年広場 約1.0 km	天神山城跡／島屋敷／仙川／丸池公園／勝淵神社	天神山通りが中央道と交差する辺りに、仙川をはさんで2つの中世の遺跡が存在する。そのひとつは、現在、団地となっている「島屋敷」。もうひとつが、青少年広場となっている「天神山城址」である。ここから仙川沿いの遊歩道を上流に向かう（北上）と、島屋敷にも関係する柴田家ゆかりの勝淵神社に着く。	●仙川の流れ ●天神山青少年広場 ●勝淵神社 ●柴田勝家ゆかりの兜塚

行程と距離	地図の要素	探訪記
⑦丸池の里 約3.2 km	仙川平和公園／農業公園・JA三鷹／中央防災公園／富士見協働組合の煙突／JAXA／	勝淵神社では、戦国時代の武将、柴田勝家の兜を孫・勝重が埋納したとされる兜塚を見て仙川平和公園へ。丸池公園から緑と水の連続空間が続いている。仙川をさらに北上すると東八道路に出、西に向かう。地元産の野菜などの販売所・JA三鷹のある農業公園を過ぎると中央防災公園に到着する。
⑧都立神代植物公園 約0.8 km	神代植物公園・自由広場・お山／植物多様性センター／深大寺	中央防災公園では、運動施設の上に近隣を眺望できる場所があり、休憩。その後、東八道路に戻り西へ。三鷹通りと交差するので南に向かう（桜並木）。諏訪神社前の二又を直進すると神代植物公園の自由広場につきあたる。調布市の運動施設の上にある芝生地（お山）から360度の眺望が楽しめる。
⑨深大寺 約1.5 km	水生植物園／深大寺城跡／どんぐり山／大沢雑木林公園	神代植物公園には正門の他に深大寺門があり、そこを出ると豊かな緑のなかに蕎麦屋が並んでいる。近辺には、開山堂があり、国分寺崖線の斜面の道を下ると国宝「釈迦如来像」が安置されている釈迦堂、そしてさらに階段を下りると本堂となる。参道を通り、深大寺城跡がある水生植物園まで足をのばす。
⑩国立天文台 約1.0 km	星と森と絵本の家／天文台古墳／大沢ふるさとセンター・市民農園／横穴墓	国立天文台では入口の守衛所で記帳をしてから構内へ。森のような構内の見学コースを自由に散策できる。大展望鏡のある天文台資料館（大赤道儀室）や構内最古の第一赤道儀室などが見どころ。第一赤道儀室の隣には古墳遺跡がある。天文台を出て、市民農園のある大沢ふるさとセンターへ。
⑪大沢の里 約1.0km	水車経営農家／古民家／野川遊歩道／龍源寺（近藤勇墓）／都立武蔵野の森公園	大沢の里には、水車経営農家や古民家、子どもたちが体験農業をする田んぼなど里山的景観が多く残されている。近くには野川が流れ、清流の宝石と呼ばれるカワセミを目にすることも。古民家では、湧き水を利用したわさび栽培の復活プロジェクトなどが市民ボランティアを中心に行われている。
⑫都立野川公園 約1.7 km	都立野川公園自然観察センター・自然観察園／野川	大沢の里から野川公園に向うと人見街道に面して、近藤勇の生誕の地や墓所の龍源寺、キウイなどの果樹栽培農家、歴史ある蕎麦屋が並んでいる。都立野川公園は、元ICUのゴルフ場だったもので、公園の中を野川が流れ、自然観察園では多様な植物や野鳥などを観察することができる。

現地写真

●仙川平和公園の水辺

●平和の像

●農業公園

●煙突（ランドマーク）

●神代植物公園

●植物多様性センター

●深大寺山門

●なんじゃもんじゃと本堂

●木に囲まれた蕎麦屋

●水生植物園

●深大寺城址

●大沢雑木林公園

●星と森と絵本の家

●天文台構内

●天文台通り

●武蔵野の森公園

●ホタルの里の田植え

●野川の流れ

●大沢たんぼと水車経営農家

●果樹園農家

●野川公園・湧き水広場

●自然観察園

●野川のカモ

●イチョウ並木

行程と距離	地図の要素	探訪記
⑬湯浅八郎記念館（ICU）	泰山荘／中近東文化センター／学園通り／ルーテル学院大学／井口八幡神社	ICU（国際基督教大学）は、武蔵野台地の西端に位置し、豊かな緑に恵まれている。学内で発見された旧石器や縄文時代の出土品が展示された湯浅八郎記念館や松浦武四郎の一畳敷が移設されている泰山荘（限定公開）などがある。湯浅八郎記念館は守衛所に申し出れば通常見学ができる。
約2.4 km		
⑭大鷲神社	井口特設グラウンド／井口院／神明社／水源の森・あけぼのふれあい公園／市民農園／上連雀交通公園	ICUの学園通りに面した門を出ると、中近東文化センターや東京神学大学、ルーテル学院大学などが並んでいる。学園通りの側道には行き交う人の目を一年中楽しませてくれる花壇が設置されている。天文台通りに出た神学大学角から住宅街に入り、大鷲神社をめざす。途中、井口八幡神社で休憩。
約1.3 km		
⑮芸術文化センター	上連雀中央公園／八幡神社／禅林寺／中央通り／（百年の森）	井口八幡神社から北上し、連雀通りに出たところの東側に大鷲神社がある。連雀通りと富士見通りに挟まれた三角地帯にある神社で、地元では「お酉さま」と呼ばれている。この後、芸術文化センターへは交通量の多い連雀通りを避け、一本南にある裏道が最適。周辺には緑につながる施設も多い。
約1.6 km		
①三鷹駅		
別ルートA	井の頭池・弁財天／井の頭自然文化園・水生物園／神田川／ゆうやけ橋／井の頭公園駅／三鷹台駅	井の頭恩賜公園から神田川沿いを通り牟礼の里をめざす別ルート。弁財天、水生物園から井の頭池の東端、水門橋（神田川の起点）の先で京王井の頭線の高架をくぐる。井の頭恩賜公園の最東端に位置する通称三角公園から神田川に沿いながら東に進み、立教女学院の南側で三鷹台駅前通りに入る。
約2.8 km		
別ルートB	春清寺／中嶋神社／中原雑木林公園／深大寺自然広場・調布市野草園	天神山城跡から仙川遊歩道に入らず、直接、神代植物公園や深大寺に向うルート。柴田勝重の墓がある春清寺や新田義貞奉納の手旗があるとされる中嶋神社、中仙川遊歩道、入間川の上流地、調布市の柴崎公園などを経て、晃華学園の北側から調布市野草園のある深大寺自然広場をめざす。
約4.0 km		

現地写真

●湯浅八郎記念館

●学園通りの花壇

●ルーテル学院大学

●井口八幡神社

●大鷲神社

●水源の森・あけぼのふれあい公園

●井口院の雨乞い弥勒菩薩像

●上連雀中央公園

●八幡大神社

●禅林寺

●中央通りの文学碑

●井の頭弁財天

●神田川の流れ

●井の頭線の高架

●立教女学院の前

●春清寺

●中嶋神社

●調布市野草園

●深大寺自然広場

「緑と水の公園都市」をテーマに三鷹市の全域と一部周辺エリア（調布市・小金井市・武蔵野市）を巡った。調査の結果、上述したように当該エリアは都心に近距離に位置しながら豊かな自然や農の風景が奇跡的に残っている場所であることを実感した。特にその周辺部は、井の頭恩賜公園、神代植物公園、武蔵野の森公園、野川公園といった大規模都立公園が存在し、三鷹市が取り組んでいる「ふれあいの里」と連動した回遊ルートは、歴史、自然、文化等々実に変化に富んだものであった。三鷹市が名実ともに「緑と水の公園都市」となるためには、人口が比較的密集している三鷹駅周辺や市の中心部で緑や水と親和性の高い空間を造りだせるかにあるだろう。三鷹駅周辺部は、今後の再開発で「100年の森構想」が謳われ大いに期待できるが、課題は中心部にある。そのなかで大きなポテンシャルを秘めているのが、芸術文化センターエリアである。ここには、八幡大神社、禅林寺、井口院、神明社などの寺社や上連雀中央公園から市内最大規模の市民農園、井口特設グランドと続くオープンスペースの繋がりがあり、周辺には「水源の森・あけぼのふれあい公園」も存在している。また、この地域を通る武蔵境通りは、快適な移動空間として他エリアとの動脈となり得る。